

2010年度 日本動物分類学会シンポジウム開催のお知らせ

2010年9月23～25日に東京大学駒場キャンパスで開催される日本動物学会第81回大会(大会ホームページ<http://www.zoology.or.jp/annual-meeting/2/index.asp>)にあわせ、下記の要領で2010年度日本動物分類学会シンポジウムを開催いたします。多数の方のご参加をお待ちしております。

変貌する動物命名規約—学名の安定にむけて

日時：2010年9月23日(木) 18:00～20:00

会場：東京大学駒場キャンパス107番教室

動物の学名の命名や運用を定めた『国際動物命名規約』の改訂新版(第5版)作成に向けた議論がすすんでいます。学名を利用する多くの方々にその核心部分を知っていただくとともに、質疑応答や議論を通じて、21世紀において学名が果たす役割についての理解を深めるために、この集会を企画しました。

正確な情報伝達や情報検索のためには、動物学的実体と一対一に対応した学名が、将来にわたって安定的に維持される必要があります、そのための装置が『国際動物命名規約』です。しかし、生物多様性を把握して保全するために膨大な未知種を精力的に新種記載しなければいけないという社会的要請のもと、「紙にインク」という伝統的な出版環境が大きく揺らいでいる今、『国際動物命名規約』は解決すべきいくつかの難問に直面しています。

問題解決に向けた試みの一端を紹介する基調講演をうけて、コメンテーターやフロアとの議論によって、論点を更に深めたいと考えています。

基調講演：命名規約に求められるもの

野田泰一(東京女子医科大学)

『国際動物命名規約』の現行版である第4版が発効してから10年以上が経過し、その間に、情報通信環境が激変した。現在、『規約第5版』に向けて検討が行われているが、その大きなテーマは昨今の通信環境をどのように利用するかであり、電子出版と新学名の登録制についての議論が活発に行われている。

今回は、まず、現行規約である第4版が何を提案したのか、提案のどれが採択されどれが採択されなかったのかを当時の時代背景と合わせて振り返りながら、命名規約のこれまでのありかたについて述べる。そして、第4版に採用されずに持ち越された課題である学名登録制度と今回新たに提案された電子媒体のみによる著作物の許容について、昨今の議論を紹介する。

司会：西川輝昭(東邦大学)

コメンテーター：

柁原 宏(北海道大学)

上島 励(東京大学)

世話人：

野田泰一(noda@research.twmu.ac.jp)

西川輝昭(nishikawa@bio.sci.toho-u.ac.jp)